

# SDP壁高欄を実施工

## 新世代PCa工業会 定時総会を開催

新世代PCa工業会(会長 篠田佳男氏)は11月2日、KFCホール(東京都墨田区)で第14回定時総会を開催した。総会では平成29年度事業報告・収支決算報告、平成30年度事業計画案・予算案が原案通り可決承認された。



篠田会長

総会開催にあたり挨拶した篠田会長は「当工業会の総会はコンクリート技術交流会に合せて開催している。技術交流会のパネルディスカッションでも話題となったが、国土交通省は建設現場の働き方改革・人手不足対策としてi-コンストラクションを打ち出し、昨年を生産性革命前年の年、今年を深化の年と位置付けて建設現場の生産性向上に取り組んでいる。NATM工法の開発で

足に陥り、プレキャストに注目が集まった経緯がある。今度こそプレキャストでなければ工事ができないという所まで持つて行くべきだ。いまプレキャストにはフォロワーの風が吹いており、そのような流れの中でSDPフォーム壁高欄の実績ができたことは意義深い。一方、プレキャストの品質について改めて検討することも必要ではないかと思う。近年、現場打ちコンクリートの品質管理技術は非常に向上している。プレキャストは品質面で優れているとされるが、それが定量的に示されていない。プレキャスト製品は品質が

劣りしている。このためi-コンストラクションでは、コンクリート工の生産性向上に向けた検討が進められており、昨年7月に現場打ちコンクリートのスランプ値が8cmから12cmに変更された。また、土木学会のコンクリート標準示方書にはプレキャストコンクリート編が新設され、プレキャスト関係の指針整備も進んでいる。

トンネル工事の生産性が10倍に向上したのに比べると、コンクリート工事の生産性向上は見

優れているという思い込みが先行しているのではないだろうか。確かに配合管理はしっかりと行われているが、工場の生産性向上を図るために蒸気による促進養生が行われている。プレキャストも本来はしっかりとした養生を行うべきで、蒸気養生をした場合の品質確保に関する定量的な実証データが必要ではないかと思う。そのような研究も当工業会では可能で、我々がどのような形で建設現場の生産性向上に貢献できるのか改めて検討したい。そして、生産性向上と品質向上をセットで考えないといけない」と述べた。

同工業会では今期、WG会議と技術活動を中心に事業を展開する計画。WG活動では新規テーマの募集を兼ねてアンケート調査を実施。コンクリート診断士等の資格取得に向けた講習会やゼネコン研究施設等の見学会の開催についてヒアリングを行う。また宇都宮大学でSDPフォームを用いた構造実験を実施中。

一方、技術活動ではSDPフォーム技術資料の再整備とSDPフォーム製造・施工マニュアルの作成に取り組む計画。この他、ゼネコン・コンサルタントに対する技術プレゼンテーションも引き続き実施する。またウェブサイトを通じた情報発信では、会員会社の最新技術情報の提供も開始する計画だ。

理想的な高耐久性埋設型枠  
「SDPフォーム」の実用化推進と  
PCa製品の新たな可能性を追求  
新世代PCa工業会

会長 篠田 佳男

事務局 東京都墨田区両国4-38-1  
日本コンクリート技術(株)内  
TEL 03-5669-6653  
FAX 03-3632-2970  
URL www.new-pca.gr.jp